

各区活動報告

北区

北区では、在宅医療ネットワーク『ござれやネット』が本格的に稼働しはじめております。医科、歯科、薬剤師、訪問看護師、介護福祉士、栄養士、理学療法士、メディカルソーシャルワーカーからなる多職種レベル向上を目的に『元氣塾』と称する勉強会を定期的開催、活発な意見交換が行われております。当然のことながら歯科医師会も、在宅歯科医療への啓発活動を行いました。また、職種間の垣根を取り払う“顔が見える関係”を構築すべく、懇親会、通称・飲みコミュニケーションを通して地域住民らを巻き込んだ盛り上がりとなっております。



西蒲区

西蒲区では6月17日に新潟市歯科医師会の事業PRを兼ねて巻夏祭り・民謡流しに参加いたしました。新潟大学歯学部学生も参加し、少しは若さも強調できたのではないのでしょうか。10月23日に岩室産業祭にあわせ、恒例の岩室健康展を開催いたしました。歯科医師会のブースは例年より狭くさみしく感じましたが、好天に恵まれ多くの方々が歯科相談に訪れていただきました。「西蒲在宅医療ネットワークの集い」では多職種連携で地域医療・介護を支えるため、年4回の定例会と総会1回を開催し連携を強化しています。



中央区

中2班では地域住民交流事業「歯医者さんと語ろう」を現在年1回開催しています。6年前「本町ホットステーション」という地域のコミュニケーション場だった所を利用し、その主催者である桑原さんのSNSを使わせてもらって参加者を15名募り、中2班から班長、副班長の他交代で3名の先生が参加して20名が飲んだり食べたりしながら、一般住民からの質問に答えたり、歯科的知識をごちからから提供するというものです。参加する住民は無料で、日ごろ疑問を持っていることが飲みコミュニケーションを通じて解決するいい機会なのでSNSで大変好評になっております。昨年は10月5日、本町の中華料理店で開催しました。今年は和食系でいこうかと副班長と昼のランチをしながら物色しているところです。



南区

新潟市南部地区地域医療連絡会は、今後も進む超高齢化社会を見据え、新潟市南区を中心とした地域の皆様の保健・医療・福祉・介護を支える職に就いている者が集ったネットワークグループです。原則毎月第3火曜日のお昼に行なわれる、ミニレクチャー主体の「おむすびコロリンの会」と、年2回行なわれる講演会が主たる活動内容です。

今回は、11月24日(木)に行なわれた第17回目の講演会の報告です。参加人数は約150名と多くの方々からご参加いただきました。演題は報告1題、一般演題2題、特別講演2題で行なわれました。報告はおむすびコロリンの会の報告です。毎回およそ20名程度の参加があり、様々な演題で行なわれています。

一般演題は、在宅医療・介護連携ステーションについてと、認知症サポーター養成講座からの寸劇でした。特に寸劇では、認知症患者に特有な症状や行動の原因等を表現していき、理解が深まりました。特別講演は2題。まずは「高齢者に関わる知っておきたい耳鼻科のはなし～難聴を中心に～」は耳鼻咽喉科和田医院の和田倫之助先生から。特に印象的だったのは、医療用の色素を使った人体実験を供覧していただいたこと。これは、「耳かきは頻繁に行なう必要はなく、月1回程度でも十分」という結論につながり、目から鱗が落ちました。

2題目の「新潟市医師会のすすめる在宅医療推進事業について」は、新潟市医師会会長の藤田一隆先生からご講演いただきました。現在、新潟市医師会では新潟市在宅医療・介護連携センターを運営して、医療と介護の連携を図っています。その際に一番の問題となるであろう情報共有のシステムについては、ICTによる情報共有システム(現在はNet4U)が使用されています。新潟市医師会では、それを発展させて「スワネット」という情報共有システムを構築しようとしています。それに関連するお話が中心でした。

要介護者がいれば、その方を取り巻く多職種の方々があります。その方々に関して、いかに顔が見える関係にするか、情報共有を進めるか。一堂に会してお話できれば何てことはないのですが、医療・介護に関わる方々は忙しくて時間を取り難いのが実情。それを埋めるために、より一層の効果的なシステム構築が望まれます。終了後は講師の皆様を交えて懇親会。多職種に渡る方々が時間を忘れて、色々な話が交わされました。

